

桐生市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

視察都市	宮崎県日南市（人口 49,329 人）
視察日時	令和5年10月4日（水） 午前10時30分 ～ 午前11時30分
訪問場所	〒887-8585 宮崎県日南市中心通1丁目1番地1 Tel : 0987-31-1142
参加者	久保田裕一 飯島英規 丹羽孝志 人見武男 岡部純朗 福島賢一 小島強
視察項目	・油津商店街の動きとIT企業誘致の取組について

■視察概要

視察項目 ・油津商店街の動きとIT企業誘致の取組について

（1）説明要旨

・説明担当者及び対応者

日南市議会 副議長 前田 幸雄 様
日南市 産業経済部 商工政策課 商工係 副主幹 阪元 稔史 様
日南市 産業経済部 商工政策課 商工係 副主幹 村角 真希 様
日南市 議会事務局 主査 原村 典子 様

・日南市の概要

宮崎県の南部に位置し、東に日向灘を臨む。宮崎市から日南市を経て、鹿児島県に至る延長112kmは、全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園の指定を受けている。

また、広島カープのキャンプ地となっている。古くから漁業が盛んで、中でも「かつお一本釣り漁業」は江戸時代からの続く伝統的漁法であり、かつおの獲量は20年以上連続して日本一を達成し、地域経済の大きな柱となっている。

また、大型クルーズ船の寄港地にもなっている。日南市飢肥は、飢肥藩伊東家の城下町であり、典型的な侍屋敷の歴史的風致をよく現した地区であり、九州地区で最初に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



↑ 油津駅



↑ 日南市役所



↑ 油津商店街

・油津商店街について

昭和40年頃の油津商店街は栄華を極め、十数年後、アーケード街には、人っ子一人歩かない街となっていた。商店街への支援を行政は行っていたが、担当者の移動や細部にわたる経営相談など専門スキルもなく、対応ができない状態であった。そのため、様々な事業を外部委託（コンサルタント委託）するが、多額の委託料を払っても、現場（その地域）に滞在する時間は僅かであった。委託契約終了後に分厚い報告書や調査結果の提出などがあり、その事業を推し進めてもなかなか成果があがらないという経緯があった。

・「コンサルタント委託」からテナントミックスサポート事業へシフト

行政は課題解決のため、中心市街地活性化事業の一つとして「テナントミックスサポート事業」を実施し、成果追求型事業を推し進めた結果、商店街を再生できる人材、「テナントミックスサポートマネージャー」の全国公募を行った。

・公募内容について

主な条件は月額90万円を委託料（保険料、各種手当、旅費、賃借料、消耗品費等の経費を含む）とし、採用後は日南市に居住し、店舗誘致目標を4年間で20店舗を誘致することであった。応募総数333名あり、一次審査（書類審査）、二次審査（公開プレゼンテーション）、最終審査（面接）を経て、木藤亮太氏が選出されている。

・テナントミックスサポートマネージャーが実行すべきこと

空き店舗の活用の検討、業種バランスを考慮した計画の確定及び事業者の誘致を4年で20店舗増やすことである。その他、タウンマネジメント体制の整備、

にぎわい創出に係るソフト事業のサポート及び協働体制の構築、中心市街地活性化に資する新規事業の提案及び実施、商店街の既存店舗の経営改革などに係るリニューアル指導・支援及び商店店主、地権者との信頼関係の構築などすべき課題が多くあった。

・ 4年間の取組と実績について

1年目 2013年（H25年）

信頼関係づくりときめ細かい現状把握を行うために市民、商店店主との対話に重視を置き、地方小都市の商店街に人を呼び戻す仕組みづくりのために（株）油津応援団を設立する。誘致店舗数はゼロであった。

2年目 2014年（H26年）

土曜日夜市の復活、大学や高校との連携があり、まちづくりに動きが見え始めるようになる。住民一人ひとりがまちの魅力将来像をかたるようになり始める。誘致店舗は2店舗であった。

3年目 2015年（H27年）

多世代交流モール「油津 Yotten」のオープン、IT企業進出があり、まちが変わりはじめ、店舗誘致数は累計15店舗となった。



↑ IT企業（ポート（株））
日南オフィス内

4年目 2016年（H28年）

まちの活性が持続していく仕組み・体制が整う。店舗誘致数は累計29店舗となる。

・ IT企業の誘致（雇用の創出）について

日南市管内の有効求人倍率は、2013年に0.53、2014年に0.78、2015年に0.84、2016年には0.99で増加し、仕事は増えているが若者の流出は止まらない状況であった。日南市のハローワークでの求人と求職者数の業種部別の調査結果によると「事務職を求める人」が多いが、求人数が不足していること、また、ほかの業種について十分な求人数があることが分かる。つまり、若者は仕事がないから日南市から流出するのではなく、若者が求める仕事がないから流出することが分かった。

・雇用のあり方について

無作為に雇用をつくるのではなく、若者が求める仕事を創り出すことの必要性があり、データに基づき事務職の雇用を作り出すために IT 企業の誘致を重点的に行った。その結果、油津商店街内に 12 社の IT 企業進出があり、約 200 名の雇用を創出された。

また、商店街に働く場所を創ることで、IT 企業社員が商店街でランチをするなどの商店街の消費者人口の増加につながっている。

・事業展開後の油津商店街の状況

商店街の総店舗数は、平成 28 年度には 59 店舗となり、それ以降、増減をしながら令和 4 年度には 61 店舗を維持している。

テナントミックスサポートマネージャーの後継は（株）油津応援団が事業を引き継ぎ、多世代交流施設の管理運営や賑わい創出のためのイベント開催している。

市では、多世代交流施設の管理運営に係る費用、一部イベント開催に係る費用を援助している。

・今後の中心市街地活性事業

平日の消費を増加させるための継続的な誘致企業による雇用増加、生活者の増加のために努力している。

また、売上増加ためにクルーズ船との連携、野球キャンプとの連携が必要であると考えている。

・油津商店街の見学

カギとなる施設・店舗

○ABURATSU COFFEE :

新規出店 1 号店であり、サポマネと有志 2 名で設立した（株）油津応援団で運営を開始した。商店街の入り口にあり、市民の思い出が詰まった喫茶店「麦藁帽子」をリノベーションした店舗。市民がいつい巻き込まれていくストーリー性を重視した店舗である。カフェ再生プロジェクトが市民の共感を集め、商店街再生が本格的に動き出すきっかけとなった。



○二代目 湯浅豆腐店：

新規出店2号であり、ランチが楽しめる豆腐店として、50代の夫婦が商店街再生の取組に共感して出店された。内装デザインや経営方針などは(株)油津応援団の30代スタッフが店舗づくりをプロデュースしている。

また、油津商店街に新規オープンしたスイーツ店と共同して「豆腐プリン」を開発し、販売している。



○ABURATSU GARDEN：

商店街の空き地を活用したテナシヨップであり、敷地内に4坪のテナナがカラフルに6つ立ち並び、日南出身者によるスイーツ店などが入居している。

また、テナナの1つ「COBOCOO」は2週間～1か月単位で出店できる仕組みとなっている。

○多世代交流施設 油津 Yotten：

閉店したスーパーマーケットを改装した多世代交流施設として、民間主体で6つの飲食店が入っている。2016年に日本建築士連合会で優秀賞を取っている。市民が利用しやすい機能として、子供たちが自由に遊べる空間と調理体験ができる「フリースペース&ミニキッチン」や広島カープのキャンプ地の歴史を語る施設「カープ館」などがある。



○あぶらつ食堂：

多世代交流施設と一体的の飲食店であり、趣の違う6つの飲食店が、鉄板杉製の長いカウンターで一つにつながる「屋台村」をイメージして作られている。油津に元気を取り戻そうと集まった地元出身の若者たちが、独立起業した食堂であり、市民が応援したくなる食堂、もしくは、未来につながる食堂がある。



○油津オアシスこども園：

商店街の空き地を利用し、新設された小規模保育施設であり、市内で認定こども園を運営する事業者が油津を盛り上げたいとの思いで開設した。商店街にあるIT企業など、市街地で働く子育て世代が働きやすい環境づくりに貢献をしている。地元の餌肥杉をふんだんに使用した2階建て木造建築物であり、2階は、今から子供を産もうとする方・若い世代の方などが集まり、語れる多世代交流ができるカフェスペースを提供している。



(2) 主な質疑応答

Q. このプロジェクトを成功した要因はどこにあると思うか？

A. 行政の対応がきめ細かく、迅速であったことにある。身近な存在であり、相談し易い環境にあった。

Q. この施設（fan!-ABURATSU-）は、どのような方が宿泊するのか？

A. 学生などの長期スポーツ合宿や家族から一人旅の方など多種多様な方が宿泊する。広島カープファンの方やサーファーなども宿泊されている。

(3) 参考となる点及び課題

・全国規模での公募を行い、個人委託料を月額90万に設定し、テナントミックスサポートネージャーの生活環境を高水準でサポートし、明確な数値目標が設定されていること。（4年間で店舗誘致数20店舗）

・日南市における雇用ニーズをハローワークなどからの情報を正確に分析し、若者が今、求めている事務職業の誘致を行っていること。

・信頼関係づくりときめ細かな現状把握を行うために市民、商店店主との対話に重視を置き、地方小都市の商店街に人を呼び戻す仕組みづくりのために（株）油津応援団を設立し、市民の思い出のつまった ABURATSU COFFEE をリノベーションことで、多くの地域住民からの共感が集まり、まち全体で協力し合える環境が整うことが重要と考える。

◎視察成果による当局への提言または要望等

マネージャーと行政と住民の方々が集まり、同じ思いで一緒に作業することで親近感が生まれ、共に行動している時の流れ中で信頼関係が構築され、仲間・同志が形成される。この関係性の維持・継続・拡大する中でやるべきことを発見し、行動を起こすことでまちが変容し、まちの活性化につながると考える。

行政では、住民との積極的な関わりを持っていると思うが、多く集まったまちに住む方の声、変革をもたらす方の声などを、行政内でしっかりと吟味し、政策に展開できる人材の育成と発掘に力を注ぐことを提言する。